

2026 年 8 月 25 日
日本船主協会 企画部広報室

JMU 津造船所の見学や練習船「鳥羽丸」を体験航海するイベントに協力
～「故郷の海を愛する会」主催『海から始まる物語 IN 2026』～

当協会は、海運をはじめとする海事産業の重要性や魅力を広く知っていただくため、全国で広報活動を行っています。その一環として、鳥羽商船高等専門学校（以下、高専）OBが中心となって活動する NPO 法人「故郷の海を愛する会」のイベントに協力しています。

8 月 5 日（水）、三重県内の小学 5 年生～中学 3 年生約 100 名を対象に、JMU 津造船所の見学会と、練習船「鳥羽丸」の体験航海が開催されました。

JMU 津造船所では、バスに乗って造船所内を一周し、担当者から造船の仕組みについて説明を受けました。JMU 津造船所には「キャナロック型ドック」（両開き式で 1 隻半の大型船を建造できる方式）があり、1 つのドックで前後に別の船を同時に建造している様子を間近で見ることができました。



<建造中タンカーの前での集合写真>

その後、会議室で紹介映像を視聴し、鉄鉱石や石炭、船の材料となる鉄板に触れる体験を行いました。両手ほどの大きさの鉄板でもずしりと重く、参加者は船の重さを実感していました。質疑応答では参加者から多くの質問が寄せられ、「船はなぜ赤いのか」という質問には、「貝などの付着を防ぐため、特殊な赤い塗料を使っている」と説明がありました。



「鳥羽丸」前での集合写真

続いて鳥羽商船高専に移動し、同校の練習船「鳥羽丸」（4 代目、2025 年竣工）に乗船。伊勢湾内の体験航海では、船橋（ブリッジ）、機関室（エンジンルーム）、甲板などを見学しました。

船橋では、乗組員の説明を受けながら実際に操舵ハンドルに触れたり、双眼鏡やレーダーを使って周囲を航行する商船の確認作業を体験。双眼鏡をのぞいた参加者は、肉



<船橋（ブリッジ）見学>

眼では小さく見える船が、文字まで読めるほど大きく見えることに驚き、感嘆の声を上げていました。

機関室では、大きな音を立てて動くメインエンジンを見学するとともに、機関長からは、船員の肩章（写真）や仕事内容について説明がありました。その中で、タイタニック号（英国籍船）沈没事故の際、機関士たちが最後まで職務を全うしたことから、英国王室の色である紫が機関部の肩章に使われるようになったとのエピソードも紹介されました。



<肩章について説明を聞く様子>

さらに、参加者は乗組員に教わりながら、本結び・8の字結び・もやい結びなど、船で使われるロープワークにも挑戦しました。参加者は真剣な表情で取り組み、熱心に学んでいました。



<甲板から海を眺める参加者>



<ロープワークの様子>

当協会は、今後も海事関連団体と連携しながら、海事関連イベント等の実施・協力を通じ、より多くの皆様への海事産業の重要性の周知・普及に取り組んでまいります。

以上